

令和6年度 自己評価・施設関係者評価表

評価項目の達成及び施設関係者評価

評価項目	実態分析・考察 (○) 改善案 (★)	施設関係者評価委員の意見
〈情報提供〉		
① 保護者や地域に向けて、園の情報が分かりやすく伝えられている。	○保護者との連絡システム「RAKURAKU」アプリを活用し、紙からメールを活用した連絡方法が定着した。また、遠足のお知らせなど必要に応じて紙文書による連絡方法も併用している。 ○ホームページを活用し、日々の子どもの様子を提供することで、在園児のみならず地域の方々にも情報提供を行うことができた。 ★メール内で確認しやすいコンパクトな文書の作成	・年間計画、園だより、遠足の連絡等、電子文書と紙文書の使い分けをするなど、適切に選択ができています。 ・日々ホームページを更新し、園児の活動の様子を伝えている。また、参観行事などを通して、園の活動を伝えるよう努力している。
② 保育者は、登降園時やクラス懇談の際に子どもの様子をよく伝えている。	○担任のみならず、職員全体で見守り、育ちを共有し、子どもの様子を保護者に丁寧に伝えられるようにしている。 ○担任と連携を取り、適切な時期（6月・12月）に懇談会の設定をしている。また、参観等では、クラス全体の子どもの様子を保護者に伝えている。 ★担当した職員が降園時、園児の様子を保護者に伝える	・登降園時に保護者に園児の様子を伝えている。その日の活動を教室前に設置しているホワイトボードにその日の様子等を知らせている。 ・個人懇談や日々の連絡などで、一人一人の子どもの様子を具体的に伝えるように努力している。
〈保育活動〉		
③ 育ちの上で必要な、子どもが楽しんで参加できるような行事がある。	○行事の見直しを行い、その時期の幼児の実態に合った保育を行っている。また、毎年行っている行事だけでなく、堺市が開催している「ごみ減量出前講座」やボランティア「おはなしそよかぜ」による絵本の読み聞かせ、動物園による出前講座等を行い、行事の充実を行った。 ★行事内容の工夫と改善	・描画造形活動、音楽、劇など、子どもの表現活動を大切にした行事に取り組んでいる。 ・毎月誕生月に対象となる保護者を招待する誕生日会を実施し、どの子も主役になれる場を作るよう配慮している。
④ 友だちと仲良くする気持ちを育てようとしている。	○他学年とのかかわりから他者を思いやる心を育てるため、定期的に「異年齢保育」を行っている。また、預かり保育でも「異年齢保育」でも同様の取り組みを定期的実施している。教え合いということで、子どもが互いに刺激し合い、成長することができている。 ★「異年齢保育」の継続的な取り組みと、交流内容の連携	・保育者は、子どもの様子をよく観察し、子ども同士のつながりを深めるような言葉かけや対応を工夫している。 ・「異年齢保育」が定着することにより、年長者が他者を思いやる穏やかで豊かにかかわる姿が見られるようになっている。

〈子どもの姿〉		
⑤ 子どもは園での生活を喜び、楽しいんで通っている	○子どもが安心して充実した生活を送れるよう、環境を整えながら「遊び」を通した学びを設定している。 ○外遊びやからだを動かすことで、運動の楽しさを知り、健やかな心の育ちを促す。 ★自然物を使った遊びの環境の充実	・年度当初、不安げな様子が見られた園児も、安心してクラスの園児とともに活動するようになってきている。どのクラスも、笑顔いっぱいでも明るく活動する姿が見られる。
⑥ 日々の活動を通して、子どもの心身の成長を感じることができる。	○豊かな体験を通して、周囲の人やもの、自然とのかかわりながら心身ともに豊かに育っていくよう、興味や関心を膨らませながら意欲をもって取り組むことができる。 ★興味を引き込むような教材の工夫	・保育者と子ども、子どもと子どもの信頼関係を元に、のびのびと活動する中で、一人ひとりが生活習慣の確立、言語・認知の発達、社会性などを向上させている様子が見える。
〈保育者〉		
⑦ 保育者は、子どもや保護者に適切な言葉遣いや温かな態度で接している。	○子どもが頑張っているところを認め、褒めることで、子どもの健やかな成長を促している。また、職員全体で愛情をもって一人ひとりの園児と接している。 ★保護者の思いに寄り添った継続的な対応	・保育者は、子どもに対して笑顔を絶やさず、子どもの気持ちに寄り添った言葉かけをしている。保護者に対しても様々な保護者の気持ちに寄り添い、あたたかく受け止めながら丁寧に対応している。
⑧ 保育者は、仕事にふさわしい身なり節度ある行動・態度が取れている。	○保育者としての意識をもって「安全面」や「衛生面」「清潔感」を考え、身だしなみを整えるよう、職員全体で心がけている。 ★職員同士で気づいたことは声を掛け合う	・常に、活動しやすい服装をしている。また、子ども、保護者、同僚に対して相手を尊重した態度で接している。
〈安全管理〉		
⑨ 園は、集団生活に必要な、きまりや約束を指導している。	○基本的な生活習慣が身につくよう、学年で段階を追って指導している。また、約束事を子どもとともに考えルールとして定着させている。 ★安全に過ごせるよう日々、施設の点検	・園の環境を整え、ルールを簡潔にし、どの子どもも基本的な生活習慣や集団の中での基本的なルールが身につくように指導している。 ・子どもの活動の様子をよく観察し、必要な社会的ルールが身につくような配慮や指導を実施している。
⑩ 園は、地震や火災などに対して、避難訓練や対策をしている。	○毎月、避難訓練（火災、地震、不審者対応）を計画的に実施し、日々取り組んでいる。 ★災害発生時の引き渡し訓練の実施	・毎月、避難訓練を繰り返し実施することで、子ども達が必要な行動を理解し実行できるようにしている。
〈環境整備〉		
⑪ 園は、子どもにとって楽しんで遊べる教育・保育環境の工夫をしている。	○保育施設や設備の安全点検を行い、危険な箇所がないか、毎月確認を行っている。危険な箇所については、園務員と連携を行い、怪我なく安心して遊べる環境の充実を図っている。 ★劣化した遊び道具、老朽化した遊具の新調	・活動の目的に応じて、活動場所や教室内のレイアウトを工夫して子どもたちが楽しめるように工夫している。また、子ども達が創造的な活動ができるように、教材、指導法、指導計画などについて研修を重ねている。

⑫ 疑問や希望、苦情等の窓口が整備され、適切な対応をしている。	○園への要望はPTA役員が情報を収集し、園へ伝えていただけるシステムが定着している。ご意見ご提案には、個別に対応したり、文書による情報提供をするなど誠意を持って対応を行っている。 ★PTAとの連携の継続及び、保護者アンケート方法の継続と質問項目の見直し	・担任はこまめに保護者との連絡をとり、積極的に保護者の話を聞くようにしている。また、それを保育者同士で情報共有し、必要に応じて、園長、教務、主任等も含めて組織的に対応している。
総合評価	・幼保小の協同による架け橋期の教育の充実を念頭に、本年度は近隣公立4小学校を対象に年長児クラスの公開研究保育を実施した。残念ながら小学校側の日程調整がつかず参観いただくことはなかったが、今後も遊びを通した幼児期の学びを共有いただけるよう、実施方法について検討を重ねていきたい。 ・保育中における子らの情報は適切に共有され、保護者への伝達等についても担任を中心に丁寧な対応ができていた。今後も、保育時間（7時30分～18時30分）のすべてにおいて安心していただける情報共有・連携を心がけていきたい。 ・お話会や天王寺動物園の出前授業等外部人材・団体を活用した保育内容の充実を図ったことにより、通常の保育では得られない豊かな体験を子どもたちに提供することができた。次年度においても、積極的に情報を収集し、発達段階にあった講座等を活用した行事の改善に努めたい。 ・定期的な異年齢交流が定着することで、園内における子どもたち同士のかかわりが深化し、温かなつながりを感じることができた。特に音楽に合わせたダンス遊びは、行事の中で適切に取り入れることで、子らの活動の活性化を図ることにつながっていた。今後も工夫改善の視点を忘れず継続していきたい。 ・トイレの洋式化改修工事により、子どもたちにとってより快適な環境を提供することができた。手洗い場やトイレの使用方法、スリッパの整え方等生活の中で身に付けさせたい習慣についての指導も適切に実施できていた。幼児期に身に付けてほしい基礎的な生活習慣の定着にむけ今後も取り組み続けたい。	